

行政視察報告書

視察報告者 穴見 憲昭

【視察期間】 令和元年 10 月 29 日～令和元年 10 月 30 日

【視 察 日】 令和元年 10 月 29 日

【視 察 地】 熊本県熊本市

【視察項目】 西部環境工場について

【調査概要及び所感】

熊本市では昭和 61 年に竣工された旧西部環境工場の老朽化に伴い、新たに可燃性の一般廃棄物を安全、安定的、経済的かつ衛生的に処理する一般廃棄物処理施設として新西部環境工場の施設整備・運営事業を（平成 24 年から整備、平成 28 年から運営）実施されている。

この事業は公設民営（DBO）方式をとっており、施設の設計・施工、管理運営を一括して民間委託しているとのことだった。

施設の特徴としては、

- ①高温・高圧のストーカ炉で日に 280 トンの焼却が可能。
- ②焼却工場としてだけでなく、災害時の避難所としても活用できる。

※災害用備品も備蓄

- ③環境ミュージアムとして小学生の社会見学を受け入れている。

※アトラクション的な造りにもなっている

という点が挙げられた。

また、排ガス処理設備として減温塔や集じん装置などを設置しているため、ダイオキシンや灰などが煙突から出ない工夫がされており、環境にも良い。

さらに、蒸気タービン発電機も設置されており、余熱を利用して発電も行なっており、本場内や隣接している西区役所での電気利用、または売電などを通して付加的な経済価値を生み出しているという点も見られた。

加えて、施設整備において市内企業を最大限活用しているとのことで、地元の人材雇用や地域貢献にもつながっているとのことだった。

今後の課題としては、

- 20年契約で運営委託しているが、施設の使用期間は35年を計画しているの
で、20年経過後の運営業者選定
- 民間委託のため、市職員の技術力の低下
- 市と業者間の契約における役割分担や責任の線引きを明確にする。

という点が感じられた。

本市も新たな環境工場建設の計画があがっているが、参考になる点が多くあると思う。熊本市西部環境工場の良い部分は活用すべきであるし、公設民営(DBO)という手法も検討していく必要があると感じた。今後も引き続き、調査・研究していこうと思う。

【視察日】 令和元年 10 月 30 日

【視察地】 福岡県北九州市

【視察項目】 小倉城周辺魅力向上事業基本計画について

【調査概要及び所感】

北九州市では、小倉城周辺の歴史的・文化的な観光資源を活用し、集客力や回遊性を高める観光・文化の名所づくりに取り組まれている。

さらにその一環で、小倉城を一年間閉館し、平成 31 年 3 月にリニューアルオープンされた。

概要としては、北九州市役所、小倉城の周辺には中央図書館や松本清張記念館、文学館や句碑・文学碑など歴史資源や文学資源が数多く存在するのだが、それらが持つ可能性や魅力を十分に発揮できていなかった。また、対象エリアが広く、且つ休憩スペースなどが無いことから、各施設それぞれで観光客が完結してしまい、施設間の連携が図れていなかった。

そのような課題を踏まえ、小倉城周辺を歴史ゾーン・文学ゾーン・市民の憩いと交流ゾーンの三つに分け、それぞれの特性を活かした空間を創出し、それぞれを繋ぎ、回遊させる試みとのことだった。

加えて、にぎわい・交流を創出するためのイベント開催や案内サービスや情報インフラの整備、観光客をおもてなし出来る人材の育成などにも力を入れて

いるとのことだった。

また、小倉城はただの天守閣としてのリニューアルではなく、シアターや体験コーナー、フォトスポットを設置し、大人だけでなく子どもも楽しめる空間になっており、さらに1階から5階までエレベーターを新設したことによって、ご年配の方や障がいを持つ方も入りやすい施設になっていた。

今後の課題としては、まだまだ情報発信が足りてなく、小倉城周辺の観光スポットとして知られていないので、力を入れていくということだったが、視察させて頂いた当日も大変多くの外国人観光客の姿が見られた。

本市も街なか中心部の回遊性は長きに挙げられる課題であるし、市内の各観光スポットが単体で完結する、というのは北九州市同様であるため、非常に参考になる取り組みであった。

また、府内城再建の声もあり、城址公園整備・活用基本計画でも少し触れられているが、今後は『復元』だけでなく『復興』という方法でも議論していく必要があるのではないかと感じた。引き続き、調査・研究していこうと思う。